

住んでよかった
と思える家を建てるために



なかがわ・加藤建築(株)



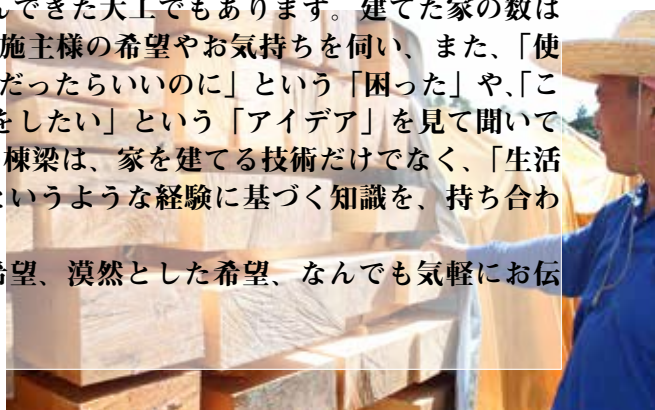
家を建てたことがないので、不安です。

ほとんどの方にとって、家を建てるのは一生で一度か二度。大きな決断を伴うものなのに、施主様はみんな家を建てる「初心者さん」です。だから、不安になるのは当然。棟梁は、施主様に寄り添って、施主様が望む家を建てるお手伝いをするのが仕事だと考えています。

実際の建てる作業をするのは、棟梁を始めとした大工や職人です。しかし、本当は建てているのは施主様なのです。棟梁は、施主様の手となり、頭となり、お手伝いします。

棟梁は、40年近く修行を積んできた大工でもあります。建てた家の数は200戸以上。施主様のそばで、施主様の希望やお気持ちを伺い、また、「使いにくい」「住みにくい」「こうだったらいいのに」という「困った」や、「これは便利!」「こういう使い方をしたい」という「アイデア」を見て聞いてきました。ながら・加藤建築の棟梁は、家を建てる技術だけでなく、「生活のこうだったら使いやすい」というような経験に基づく知識を、持ち合わせています。

絶対にこうしたい!という希望、漠然とした希望、なんでも気軽ににお伝えください。





棟梁：加藤泰久

棟梁って、ご存じですか？ いうなれば、棟梁（とうりょう）とは、大工のトップに立つ人。家を建てるときの全体を管理するプロデューサーみたいなものです。きちんとした家が建てられるように、大工の専門知識をもとにして、大工や職人に指示を出したり、施主様の希望を聞いて調整したり、工事の進捗を管理する大工のことをいいます。

棟梁というと、「怖そう」「気難しそう」というイメージを持たれる方も少なくありません。たしかに昔の棟梁はそうだったかもしれません。危険な建設現場を管理し、安全で丈夫で快適な家を作る責任感から、厳しい態度を取る棟梁が多かったのです。

ながら・加藤建築の棟梁は、そんな「棟梁像」からはちょっと違った棟梁。もちろん、大きな建設現場を管理し、施主様の大切な財産を造り上げる責任感から、ときには厳しい表情を見せることもあります。しかし、普段はいたってざっくばらんな感じで、いつもニコニコ。施主様の希望に叶う家を作るためには、施主様の希望を伺い、寄り添う姿勢で仕事を進める必要があると考えているからです。「こんなこと聞いたら、棟梁に怒られちゃうかな」なんて心配は無用。ざっくりよく分からないこと、こんなのはワガママなのかな？と思うことでも、どんどん質問してください。施主様や住む人の質問に答えて解決策を考えるのも、棟梁の楽しみのひとつです。



ながら・加藤建築の日本家屋

「日本家屋」というと、どのような家を想像しますか？ 床の間のある家、障子がある家、畳の家、はたまた古民家風の家でしょうか。

ながら・加藤建築で建てる「日本家屋」はそうしたイメージにとられないもの。自然の木を活かし、日本の気候や環境にあった建て方をした家。住む人の「こんな風だったらいいな」という希望を叶えるための家の建て方のことを、日本家屋と呼んでいます。





自然の木材を徹底的に活かす



ながら・加藤建築では、自然の木材を活かした家造りをしています。日本の自然の中で育った木材、日本の森林で育った木材をふんだんに活かした家です。

最近の建築では、建材といって天然の木材ではない材料を使って家を建てることが増えてきました。たしかに見た目もよく、比較的廉価で、一定の品質の材料を準備できるので、建てる側にとっては便利かもしれません。ちょうど、工場で大量生産する製品が、見た目もよく、お手頃価格で手に入るようなものです。しかし、こうした建材は、自然の風合いや香りを感じにくくなってしまっています。

ながら・加藤建築で建てた家を体験された方は、その自然の木材の質感を「足の裏で感じる風合いが違う」とおっしゃいます。心地よさ、快適さが、全く違います。棟梁は、「お客様に自然の木材で建てた家を堪能してほしい」と考えており、少しでも良い木材をご提供できるよう、日々、精進しています。

- ・憧れの家って、実は洋風なんですが……
- ・日本家屋って昔ながらで不便そうな感じがするけれど？

日本家屋というと、古くさいイメージを持たれる方もいるかもしれませんが。しかし、大きな窓、楽しい団らんが可能な今風の家も、日本家屋で建てることのできるのです。

ながら・加藤建築で家建てる場合、施主様にいくつかのモデルの中から選んでいただくという形を取りません。イチから建てる人の希望を聞きながら設計していくのがながら・加藤建築のスタイルです。だから、小回りの利く、かゆいところに手が届くような家になります。

大きなウォークインクローゼット、吹き抜けのある玄関、おしゃれなドア……。憧れの家ってあると思います。日本家屋とは、天然の木材などを活かして建てた日本の気候に適した家。いわゆる「洋風の家」もながら・加藤建築では日本家屋として建てられます。

シンプルで風通しがいい家。それがながら・加藤建築で建てる日本家屋の得意分野です。



空気が流れる家

自然が感じられる家がいい、自然の光がふんだんに入る家がいい、換気扇をつけっぱなしにしなければいけない家はちょっと……。という希望をよく聞きます。大きな窓があって採光がよいと、家の中の雰囲気がとてもよくなります。自然の風や空気が十分に取り込める家は、住む人の健康によいですし、家自体の健康にもよいものです。湿気のすくない家は、カビが発生しにくく、長い間住んでいただくことができます。「換気扇を取り付けるから、窓からの換気は気にしないでいい……」本当でしょうか。

ながら・加藤建築の日本家屋は、お宅の周りの環境、家族構成をよく考えて、大きな窓、風が良く通る廊下などを作るよう工夫しています。たとえば、トイレの向きをちょっと工夫するだけで、無理だと思っていた大きな窓が付けられたなんてことも……。



使い勝手のよい収納

広い物人が欲しい。ステキなウォークインクローゼットが欲しい。という希望もよくあります。しかし、大きければよい、多ければよいというものでもありません。生活するうえで、あると便利な場所、大きさ、仕切りなどなど、考えておくとういことが意外にあります。ちょっとした工夫で、生活のしやすさは大きく変わるものです。施主様の「こんな風にしたい」に応じてきた棟梁だから、解決策やヒントをたくさん持っています。造り付けのウォークインクローゼットや物入れ、使いやすいですよ。

家の敷地は狭いけど……。という悩みにも応えます。ちょっとしたすき間も造り付けの収納などを作ることで、快適に生活できます。むしろ、コンパクトな家は、工夫するととても住みやすい家になるものです。

洗濯機置き場の上の小スペースに洗剤置き棚を作る。生活導線上にポールや棚を付ける。コンセントの位置や高さ。トイレの収納などなど。住むと感じる「あったらいいな」「ちょっとした工夫」を、前もって棟梁がアドバイスします。ながら・加藤建築の日本家屋ならば、建てた後で気づいた「あったらいいな」も棟梁が奮闘して解決します。建ててからも、施主様とともに家を守っていきます。





ながら・加藤建築(株)

棟梁が ご説明します！

いつかは家を建ててみたいけれど……。

自分でも、どんな家を建てたいのかよくわからない。

まずは、もうちょっと詳しく聞いてみたい。

などと少しでも思われたなら、

お気軽に、ながら・加藤建築までお問い合わせください。

棟梁が、よろこんでお話を伺います。



GOOD SKILL

建築大工I級

建設業の許可票			
商号又は名称	ながら・加藤建築株式会社		
代表者の氏名	代表取締役 加藤 泰久		
一般建設業又は特定建設業の別	許可を受けた建設業	許可番号	許可年月日
一級	建築工事業	愛知県知事許可(第1種)第79151号	年10月24日
一級	大工工事業	愛知県知事許可(第1種)第79151号	年10月24日
一級	とび・土工工事業	愛知県知事許可(第1種)第79151号	年10月24日
一級	建築工事業	愛知県知事許可(第1種)第79151号	年10月24日
一級	解体工事業	愛知県知事許可(第1種)第79151号	年10月24日
この店舗で営業している建設業	建築工事業、大工工事業、とび・土工工事業、建築工事業、解体工事業		

ながら加藤建築

🔍 検索



代表取締役社長 加藤泰久

〒441-1115 愛知県豊橋市石巻本町字向野 74-1

TEL :0532-88-1611/FAX:0532-88-4817 / 携帯 :090-2686-6066

E-mail kinoie@nagara-katou.jp

URL <https://www.nagara-katou.jp/>